

司式 熊田雄二牧師  
奏楽 森永美保姉妹

前 奏  
開 会 招 詞

\* 賛 美 歌 41:1 神はわが力

神はわが力 わが高きやぐら 苦しめる時の近き助けなり アーメン

\* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書3 罪の告白②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しなければならぬことをせず、してはならぬことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いでください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えのために生きる者とならせてください。

主イエス・キリストの御名によって。アーメン。(詩編32、イザヤ53、ローマ7)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈禱書4

- あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
- あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
- あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
- 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
- あなたの父と母を敬え。
- あなたは殺してはならない。
- あなたは姦淫してはならない。
- あなたは盗んではならない。
- あなたは隣人について偽証してはならない。
- あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。(出エジプト20、申命記5)

\* 賛 美 歌 41:2 御言葉の水は

みことばの水は疲れをいやして 新たなる命 与えてつきせじ アーメン

共同の祈禱 祈禱書44 進路・受験・就職のための祈り

神様、教会の子どもたち・青年たちが、与えられた賜物と使命にふさわしく導かれますように。一人一人が、与えられた能力を十分に発揮することができますように。すでに進路が決まった者、これから決まる者、希望どおりにいった者、希望どおりにいかなかった者、その一人一人のゆくべき道を守ってください。喜びのときには感謝し、悲しみのときには耐え忍ぶ信仰を養ってください。

(箴言3、エフェソ4～5)

献 金 (黒)教会活動 (赤)東部中会の伝道 70  
今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖書朗読 ルカによる福音書6章1-11節 (新約聖書111頁)

説教 「主共にいます安息」 熊田牧師

祈 禱

\* 賛美歌 41:3 神の御元べは  
神のみもとべは常に安らげく 苦しみ悩みも消えてあとぞなき アーメン

\* 主の祈り 祈禱書1  
天にまします我らの父よ  
願わくは御名をあがめさせたまえ  
御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ  
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ  
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ  
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ  
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

\* 頌 栄 67主イエスの恵みよ  
主イエスの恵みよ 父の愛よ 御霊の力よ ああ み栄えよ アーメン

\* 祝 禱  
後 奏 (黙禱)

報 告

門脇陽子長老

## I. 安息日のエピソード二つの背景

6：1～5 安息日に麦の穂を摘む

6：6～11 手の萎えた人をいやす

そもそも十戒の中でも、第四戒の安息日が特に重視されるようになったのは、バビロン捕囚以後のことです。国が滅ぼされて都のエルサレム神殿は破壊され、多くの人々がバビロンに連れて行かれました。エルサレムで神殿礼拝ができなくなると、できるのは安息日に集まって律法を読むことでした。律法と預言者と詩篇という聖書を読むことでした。クリスチャンから言うと旧約聖書を読むことです。

ところが、バビロンが滅びてペルシャの支配になると、寛大な王様によってエルサレム神殿の再建が許可されました。それがエズラ記、ネヘミヤ記に書いてあります。しかし、エズラ記、ネヘミヤ記、またエステル記など、旧約時代最後の書物を読んでも、ファリサイ派とかサドカイ派は出て来ません。エルサレム神殿が再建されたあと、500年くらい経って、イエス様誕生の新約聖書の時代になると出て来ます。

その500年の間に、神殿の儀式を重要視するサドカイ派、律法と安息日を重要視するファリサイ派という、ユダヤ教の派閥が形成されました。イエス様は神殿のいけにえ礼拝を終了させる荒っぽいパフォーマンスをなさったので、サドカイ派からも訴えられるわけですが、それは年に三度の祭で最後に都エルサレムに行かれた時のエピソードです。ふだんは町々のシナゴグという会堂に、毎週土曜日の安息日に行かれました。そこは律法重視のファリサイ派の牙城でした。

## II 1-5節 安息日に麦の穂を摘む

ファリサイ派は、イエスの弟子たちが人の麦畑の穂を摘んで食べることは非難していません。コイノニアホールに農民画家ミレーの「落穂ひろい」がありますが、これはルツ記の、ルツの落穂ひろいです。

ルツとしゅうとめのナオミは、難民のような姿で外国から戻って来ました。幸い、イスラエルには、貧しい者への隣人愛の掟がありました。「隣人の麦畑に入るときは、手で穂を摘んでもよいが、その麦畑で鎌を使ってはならない。」（申命記23：25.26 旧約聖書317頁）。手で穂を摘んでもよいのですから、落穂を拾うことなど貧しい者の特権でした。

ファリサイ派は律法には詳しいので、それくらいは知っています。主イエスの弟子たちが「麦の穂を摘み、手でもんで食べた」ことはドロボーだと非難してはいません。しかし、穂を摘んだのが安息日でしたから、安息日にはしてはならないことについて、自分たちが勝手に作った掟から非難しているのです。それは、穂を摘むという労働です。安息日には何もしてはならないという律法の解釈から、してはならないことのリストを細かく作ったのです。何もしてはならないといっても、一日中不動の姿勢でいることはできませんから、「これくらいならいい」という気まわりを作ったのです。

イエスはダビデ王の例によって回答なさいました。ダビデと供の者たちが空腹の時、祭

司から供え物のパンをもらって食べたことです。そのパンとは、安息日ごとに供え替えるパンでした(サムエル上21：1-7 464頁)。

祭司の掟では、祭司たちの安息日労働は罪にならないどころか、いちばん労働する日です。パンを焼いて供えるためには、火を起こす労働から始め、たくさんの労作業があります(レビ24：8.9)。今日、牧師が「きょうは安息日ですから、何もしません」では、礼拝もなされません。

イエスも弟子たちも、安息日では御言葉を語る預言の働きをし、病人や盲人を癒す祭司の働きをしました。ろくに食事も取れぬほど働きました。大祭司イエスと弟子たちが祭司として働いているのだから、安息日に麦の穂を摘んでどこが悪いか、となります。

さて、5節でイエスは御自分のことを「人の子」というメシア称号で宣言しておられます。「主=キュリオスkurios」という言葉を聞いてファリサイ派の人々は驚愕したことでしょう。実際の言葉はヘブライ語かヘブライ語に近いアラム語なので、明らかに「ヤハウエ=主なる神」に近い言葉です。

これがだんだん問題になっていきます。イエスを訴えた人たちは「冒瀆罪」と叫びました。イエスを信じた人たちは「イエスは主です」と信仰告白しました。その信仰告白は同時に「イエスは神の御子にして人の子なるキリストです」と告白します。

### Ⅲ 6-11節 手の萎えた人をいやす

「ほかの安息日」とは、麦畑を通して会堂にお入りになった安息日とは別の安息日です。イエスを訴えようとした人々は、7節によると「律法学者たちやファリサイ派の人々」とあるので、「律法学者」が加わっています。今度は麦畑ではなくて会堂です。彼らは、イエスを訴える口実として、手の萎えた人を癒す医療の労働をするかどうか、見張りました。中風の人を癒した時も、「ファリサイ派の人々と律法の教師たち」と言っていますが、「この人々は、ガリラヤとユダヤのすべての村、そしてエルサレムから来たのである」と言っていますので、もう国中で見張っていたのです。

ところが、主イエスは、彼らの考えを見抜いて、訴えさせる状況を自ら設定されました。律法学者たちやファリサイ派の律法解釈によれば、急病なら許される、急でなければ許されない、したがって「右手が萎えていた」のは急病ではないから、許されない！ となります。

イエスの答は、律法からかけ離れていることを指摘するものでした。一人の人が癒されて喜ぶのを共に喜ばないほどでした。「安息日に律法で許されているのは、善を行なうことか、悪を行なうことか。命を救うことか、滅ぼすことか。」と怒りを含んであたりを見回しました。

安息日に善いことという「善い」 kaloos は、善悪の善です。「許されている」は、合法的 eksestin ということです。安息日に善を行うのは律法にかなっている。つまり、「許されている」どころか奨励されているのです。律法は愛だからです。

イエスは律法学者たちとファリサイ派の人々「一同を見回して、その人に「手を伸ばしなさい」と言われました。」律法は愛によって癒しをなさいました。言葉だけによる神の業が、「イエスは主である」ことを示しています。

同じ記述のマタイ福音書、マルコ福音書では、萎えた「手」と言っているだけですが、

ルカだけは、「右手」と言っています。医者ルカらしい正確な記述です。ルカ福音書の始めに「詳しく書く」と言っているルカの本領発揮です。おそらく癒された人は右利きで、利き腕を治してあげれば職場復帰もできるでしょう。

イエスが会堂に入って行かれたのは、論争するためではありませんでした。会堂に集まった人たちに、安息日にすべきことを行って律法を教えるためでした。安息日にすべきは、神への礼拝と隣人愛です。ところが11節。「ところが、彼らは怒り狂って、イエスを何とかしようと話し合った。」「何とかしよう」とは抹殺することです。律法学者とファリサイ派の人々は、安息日に、生かすことより殺すことを相談し始めたのです。

しかし、その事についても、主導権は主なるキリストにありました。イエスは彼らの不当な裁判によって十字架にかけられましたが、それが、罪の赦しと永遠の命への道を開いたのです。安息日の主は、私たち信じる者を主日の礼拝ごとに安息を与えて、この世の旅路を導いてくださいます。

「疲れた者、重荷を負う者は、誰でも私のもとに来なさい。休ませてあげよう」と、招いてくださいます。魂が飢え渴いている空腹の者を招いてくださいます。そして世の終わりに再び来てくださる時には、永遠の安息に導き入れてくださるのです。今も後も、キリストの内に安息しましょう。